

日本イエナプラン教育協会



ニュースレター Vol.10 2011.8月号

発行元: 日本イエナプラン教育協会

編集: 田村 悠子

住所: 〒155-0033

東京都世田谷区代田6-3-22-202

TEL: 070-5559-0361 FAX: 03-3466-3439

HP: <http://www.japanenaplan.org/>

mail: Info@japanenaplan.org

7月・8月はリヒテルズさんによるワークショップや講演が行われました。今回のニュースレターでは、そのワークショップについて、参加された方々の感想も交えながら振り返りたいと思います。各ワークショップでの雰囲気などを味わって頂ければ幸いです！
編集(田村)

第9回

子どもが自分の発達と社会の発展を見定める力

—<メタ認知>というインテリジェンス—

協会代表 リヒテルズ直子

人間の能力の中でも、大変高度な能力の一つに、<メタ認知>というものがあります。

これは、自分自身のやっていることや自分が今いる位置から少し距離を取って、全体の中で眺め直す力です。言い換えるならば、自分がしていること、自分が置かれている場、自分が属している社会を、もっと大きな全体の中に位置付けて、「相対的」に見直してみる力です。それがなぜ大切であり、高度な能力と考えられるのかというと、相対的な見方ができることで、独善を避け、他者と協力し、「中庸」の、おそらくその時点でのバランスの取れた柔軟な解決法や物の見方を見出すことができるからです。物事を「絶対視」することなく、常に、プラスとマイナスの両面を見る力につながります。それは、他者の意見に耳を傾け、協力して共により良いものを作り上げようという態度を育成する力ともなります。

言うまでもありませんが、毎日の授業をドリルや暗記、テスト、受験勉強の準備のためだけにやるような、子どもを完全に受け身の存在にしてしまう画一授業主体の学校の勉強の中には、この<メタ認知>の要素はとて少なくなります。

ドイツで生まれたイエナプラン教育がオランダに紹介され、それが、オランダ・イエナプラン教育として発展していった時、この普及に関わった人たちの間には、<メタ認知>という言葉そのものは使っていませんが、明らかに、こういうメタ認知を発達させることが、学校の重要な役割の一つであるという意識はあったもの、と思われまます。

では、<メタ認知>は、イエナプラン教育においては、どういう場や状況の中で育てられているのでしょうか？

私は、イエナプラン校では、<メタ認知>は以下の3つの面で育まれていると思います。

1. 生徒が自分の学習の主体者となる状況
2. サークル対話や異年齢集団の中で、自分を他者に照らして相対的に見直す機会
3. ワールドオリエンテーションにおける『時』と『空間』の意識

それぞれについて、少し詳しく触れてみましょう。

1. 生徒が自分の学習の主体者となる状況

イエナプラン校では、4歳で入学した時から、毎日、その日の学校生活の流れを子どもたちが理解したうえで、授業を展開するようにします。

一般に、イエナプラン校では、科目別の授業ではなく、アクティビティの型によって時間割を作ります(「オランダの個別教育はなぜ成功したのか——イエナプラン教育に学ぶ」(平凡社) p.128~134)。そして、その活動の流れは、子どものバイオリズムにできるだけ沿ったものとして造られます。つまり、朝学校に来てまだ頭がすっきりしている間に、算数の授業をしたり、読書の時間などを設ける、また、そういう集中力を必要とした活動の後に、体を動かせる遊びの時間などを設けて気分を転換させる、昼食後の少し眠くなる午後の時間には、クラスメートとの相互作用の多いワールドオリエンテーションや、図画工作な



Photo: リヒテルズ直子

どの時間を設けるという具合です。

こういう流れは、けれども、毎日型にはまったように同じ形で繰り返されているわけではありません。1週間のうちの初めの日には、子どもたちがブロックアワーを使って進める自立学習の時間割づくりをしなければなりませんし、週の終わりの金曜日の最終の時間には、週末のミニ学芸会もあります。

子どもたちは、そういう1日や一週間の流れの中で、今、自分はこの場にいるのか、この時間には何をしておかなくてはならないのか、ということを実感しながら学んでいます。毎週の活動の中に、自分で企画できる時間も当然含まれています。特に、毎日の授業の流れは、4、5歳児のクラスでは、ピクトグラムを使って、また、それ以上のクラスでは、文字と図を組み合わせるなどして、子どもたちが、1日の流れを実感できるような工夫がしてあります。こうすることで、先生がいちいち



「はい、では次には何をやりますよ」「はい、教科書とノートを広げて」

などと声を張り上げなくても、自分たちで、時計を見ながら次の時間のアクティビティの準備をすることができるのです。そうしておけば、けたたましいベルやチャイムを鳴らす必要もありません。このように、自分の行動(学校においては自分の学習活動)を1日、また、1週間の活動の流れの中で、自覚して進めるのも<メタ認知>のトレーニングの基本です。

2. サークル対話や異年齢集団の中で、自分を他者に照らして相対的に見直す機会

言うまでもなく、サークル対話は、<メタ認知>のトレーニングの中でも大変重要なものの一つです。一斉授業の人間関係は、先生と自分との1対1、とりわけ、先生から生徒への働きかけの量が、その逆の働きかけよりも圧倒的に大きい人間関係です。しかし、サークルにすることによって、学習活動の中での先生の働きかけの比重がずっと小さくなります。これは、生徒の自立性の比重が高められると同時に、生徒同士のインタラクションを通じた学びの量が大きくなるということでもあるのです。

ただ、それは、教科的な、つまり、テストに出るような能力の発達にとどまるものではなく、社会性や情緒、さらにコミュニケーション能力の発達という、あまり数量として測定できない、けれども、発達すべき人間の能力としては大変重要な能力に関わるものです。

何らかのテーマをもとに話し合いをしながら、自分の考えや見方を、他の人の考えや見方の中において、それに照らして見直す力を育てることになるからです。その意味で、サークル対話は、「守られた」環境の中で、ルールに基づいて行われる、生徒同士の「ポジティブな」ぶつかり合いの場である、とも言えます。

いつも同じ考えや同じ見方をする必要はない、むしろ、違っているから豊かなのだよ、ということを実感できる場なのです。

自分の考えに対して外から「相対的に」見直し、必要とあれば『柔軟に』自分自身の考えや見方を修正する準備のある人間を育てる場となります。

3. ワールドオリエンテーションにおける『時』と『空間』の意識

さて、イエナプラン教育がドイツからオランダに伝わって以来、最も大きな発展を遂げたのは、おそらくワールドオリエンテーションであったと思います。

その言葉が示す通り、イエナプランのワールドオリエンテーションは、子どもたちの現実世界での経験を、世界の中に位置付けて見直すことを目的としています。世界の中に位置付けるとは、突き詰めていえば、歴史(時間)と世界的視野(空間)の中で、自分の経験を理解する、ということです。

イエナプランのワールドオリエンテーションは、子どもの経験世界を次のような7つの領域に分けています。

1. 作ることと使うこと(労働・消費・持続可能性)、2. 技術(建設・機械と道具・大きなシステム・原料とエネルギー・技術をどう使う)、3. コミュニケーション(他の人と・自然と、または、自然の中で・他の国の人と)、4. 環境と地形(人の生息・植物動物の生息・住まいとしての地球・宇宙環境)、5. 共に生きる(社会に帰属する・共に生きるために・共に一つの世界を)、6. めぐる1年(1年の中の月日・お祝いや催し・学校の1年)、7. 私の人生(私・人々・大人たち)

しかし、この7つの領域とは別に、というか、7つの領域の全てにわたって適用されるものとして、さらに<時間>と<空間>に関わるテーマも挙げられています。言い換えれば、7つの領域で具体的に取り上げられるテーマのそれぞれについて、歴史的な視野と世界的視野の中で見直してみる、という作業を取り入れていることです。例えば、「主食」というテーマはどうでしょう?(小さな子どもたちだったら、「朝ごはん」というだけでもいいかもしれません)

子どもたちが経験にもとづく「主食」、つまり、現代の日本人の生活環境の中の主食である「米」「小麦」といったものについて研究を進めてみれば、子どもたち自身で食生活にまつわるいろいろな発見ができるでしょう。しかし、それを、歴史的な時間軸の中にとらえてみたらどうでしょうか。

日本人は、かつて何を食べてきたのか、いつ、何をきっかけに食べるものが変わったのか、これからの日本では食糧問題はどのような発展をしていくのか。さらに、空間の時間軸においてみたらどうでしょう？ 世界の他の国々では人々は何を主食としているのか。それはなぜなのか。満腹に食べられる地域と空腹または飢餓の地域は？ それはどんな理由によるのか。自然環境のため(天の恵みや天災)か、それとも、人為的で社会的な状況(技術発展や人災)が理由なのか？

このような学習は、年齢に合わせて、4歳からでも十分にできる学びです。

そして、こういう学びの中で、子どもたちは、自分が経験している「個別」の事例を、時間や空間の軸を使って、全体の中の一部として「相対的」にとらえることができるようになるのです。それはまた、他の人にとっての独自の「個別」の事例を、外から理解する力にもつながります。

なぜ＜メタ認知＞を育てることが大切なのか、、、今、おそらく、この記事を読んでくださっている皆さんの心の中に、ざわざわといろいろな思いが沸き立っていることと思います。その思いを他の人と交換することが、また、私たち大人の＜メタ認知＞のトレーニングでもあるのです。

知識に＜絶対＞はありません。また、学習に「これで終わり」ということもありません。



リヒテルズ直子氏、待望の新刊が発売されます！！

リヒテルズさんの最新刊が株式会社ほんの木から9月15日(予定)に発売されます！

『祖国よ、安心と幸せの国となれ』
(1680円の予定でしたが1470円になりました)

誰よりも早く手にとりたい！読んでみたい！という方、予約も受付中です。
新刊のお問い合わせはこちらから↓

【株式会社ほんの木】
TEL:03-3291-3011
メール:info@honnoki.co.jp



ついに出版
待望の
書き下ろし
新刊!

ほんの木最新刊(2011年)

リヒテルズ直子
著

**祖国よ、
安心と幸せの
国となれ**

未来世代の存続と
希望のために
社会の仕組みを作り変えた
政治、教育、経済の
オランダが教えてくれるもの
日本は必ず復活できる
世界に生かせる日本になるために

四六判
予価1680円(税込)

大震災、原発事故、財政赤字
日本は今、非常事態にある！
この国家危機に最先手をへきせ、
子どもたちと未来世代への希望、既得権
益の解体と社会の再建を、展望なき官
債、私欲の財界、政争の政治屋、正義なき
いマスコミ、長い物に巻かれる学者、動か
ぬ労働組
放置すればこの国の混乱と不安、不幸が
ずっと続く。根本的にこの尺度を変えよ
う！競争から共生へ、悪しき自由から高
貴な平等へ、
日本の迷途に石を投じる、日本人への問
題提起の書！

オランダ在住教育・社会研究者
リヒテルズ直子 著

「祖国よ、
安心と幸せの国となれ」

「ご予約受付中」
送料無料で
先にお届けします

ただ今ご予約受付中
です。お電話、FAX、メ
ール、ハガキでご注文
下さい。発刊後、メー
ルにてご自宅に送料無
料でお送りいたします。

オランダにあつて、日本に無いものは、安心と幸せ。
財政赤字は1000兆円、返済能力が破綻したこの国
に3月11日が襲った。大津波と原発事故。三重の苦難。
日本復興のビジョンは、オランダ社会がモデルになる。
子どもたちの幸せ感、失業や老後の安心、平等な経済。
未来に安心と希望を求める全ての日本人へ贈る渾身作。

好評
発売中!

「いま開国の時
ニッポンの教育」
リヒテルズ直子
著
定価1680円(税込)

「いま開国の時
ニッポンの教育」
尾木直樹
著
定価1680円(税込)

FAX 03-3295-1080

リヒテルズ直子さん書籍のご予約、ご注文 FAX 用紙			
お名前	さしつかえなければ ご職業をお教え下さい	ご所属の団体がある場合は お書き下さい	
TEL	FAX	メールアドレス	
お届け先ご住所 〒			
ご注文の冊数をご記入下さい。			
予約	「祖国よ、安心と幸せの国となれ」 リヒテルズ直子 著	送料無料で ご自宅お届け 予価1,680円(税込)	ご予約 冊
注文	いま「開国の時 ニッポンの教育」 尾木直樹 著	送料無料で ご自宅お届け 定価1,680円(税込)	ご注文 冊

※書籍の代金は、商品到着後、別途にてお送りさせて頂きます。郵便用紙をお使い下さい。コンビニ郵便局にてお支払い頂けますようお願い致します。
FAX ▶ 03-3295-1080 TEL: 03-3291-3011 株式会社ほんの木 〒101-0054
TEL: 03-3291-3011 東京都千代田区神田錦町 3-21 三興ビル
メール: info@honnoki.co.jp ありがとうございました。

3つのワークショップ(埼玉・浦安・東京)のご報告

7月27日、30日、8月4日と、埼玉・浦安・東京で、リヒテルズさんによるイエナプラン教育のワークショップが開催されました。3つのワークショップのご報告をお届け致します。参加できなかった皆さん、ニュースレターで会の様子をお楽しみ下さい。

ワークショップin埼玉

【子どもも大人も幸せになれるオランダ・イエナプラン教育のグループリーダーのあり方】

7月27日、さいたま市で帰国したリヒテルズさんの第1回目のワークショップが開催されました。今回のテーマは『子どもも大人も幸せになれるオランダ・イエナプラン教育のグループリーダーのあり方』でした。学び合い埼玉の会と日本イエナプラン教育協会の共催で行われた会の参加者は30名で満員御礼。会場に作られたサークルには、びっしりと人が埋まり、活気ある場となりました。

リヒテルズさんによる講義と遊び、サークル対話と盛り沢山の2時間はあっという間で、もっともっとお話を伺いたいと思った方は多かったのではないのでしょうか。遊んで、聞いて、考えて、話し合い、そしてまた考えて…、という2時間の内容は以下の通りです。

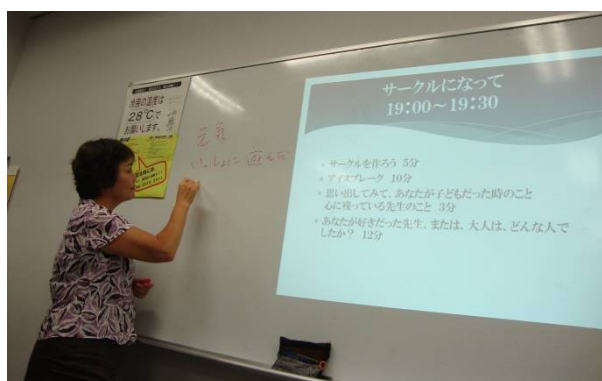
- 1:サークルを作ろう
- 2:好きだった先生のことを思い出してみよう
- 3:プレゼン1『イエナプランのグループリーダー』
- 4:プレゼン2『未来の市民社会を目指して...学校の役割』
- 5:5本指のビジョン
- 6:グループでのサークル対話『これまでの学校・これからの学校』
- 7:まとめ

さて、会の最初は遊びから始まりました。「郵便番号の下四桁順に並んで下さい。」と、リヒテルズさんの言葉を受けて動き出す参加者達。お互いほとんどが初対面という方ばかりの中で、大きな声で自分の番号を言う人、周りを見てから動く人、その人の性格が単純に「並ぶ」という行為の中から見えてくるアイスブレイクでした。

この日の集団のグループリーダーでもあったリヒテルズさんは、参加者の動きにも注目して集団の特性など色々な事を判断されていた訳です。その後、『発言は強制しない』『できれば順番で当てるような事もしない』というサークル対話の環境を整える基本ルールのお話がありました。私は「ああ、授業で順番に当てちゃう事があるなあ。」などと、自分の事を省みつつお話を伺いました。

サークル対話の時間でとても印象に残ったのが、『子どもだった時に好きだった先生の事を思い出し、その先生がどんな人だったか話してみよう。』という事でした。皆さんから出てきた『素敵な先生』にはどれも納得。キーワードで出てきたのは次のような言葉です。

- ・元気
- ・一緒に遊んでくれる
- ・明るい
- ・ウソをつかない
- ・一緒にいてくれる
- ・話を聞いてくれる
- ・個性が強い
- ・楽しそうに教えてくれた
- ・失敗を受け入れてくれた



などなど。人によって心に残っている先生が様々でそのエピソードもとても面白かったです。

プレゼン1に移り、イエナプラン教育における大人と子どもについて講義がありました。こども＝何も知らない、おとな＝なんでも知っているという考えにどこか縛られていないだろうか？そんな疑問が投げかけられた時間でもありました。子どもの持って生まれたもの、芽生え始めた種を大人がどうサポートしていけるのか？いくなきなのか？リヒテルズさんの「教師は『人間を育てる専門家』。」という言葉にハッとさせられました。だからこそ、『大人である私達は学び続けなければならない。』という思いを強くしました。

ここでイエナプラン教育のグループリーダーのあり方を写真と共に確認しました。『グループリーダーは子ども達全体を把握して適切にリードをする。』『子ども達を見守っている。』『良い教師とは自分では舞台上に立たないディレクターのようなもの。』いくつかキーワードが飛び出しました。そして、皆それについて各々で考えているようでした。



プレゼン2では、子どもの個性を伸ばすために環境を整える事が大事だという事を学びました。『水』をテーマにして、一体どのような学習が展開できるか？サークル対話の中でそれぞれが意見を出しましたが、成分・歴史・水道など、身近な『水』というテーマで理科にも社会にもつながる様々な事が学べる事を確認しました。私達の周りには学習のための材料が沢山あるのです。これって面白い！と、子ども達が学びたいと思える環境を作る事、教室にそのようなコーナーを設置するなど、オランダの教育には様々なアイデアが詰まっています。

後半に行なったアクティビティの1つには、『5本指のビジョンづくり』というのがありました。5本の指を使って自分自身について・日本の社会について考えていくというものです。

- ・親指＝何が得意？
- ・人差し指＝どこに向かっていきたい？
- ・中指＝何をやめたい？
- ・薬指＝何を大切にしたい？
- ・小指＝どういふことでもっと成長したい？何をもっと学びたい？

手のイラストの書いてある紙に自分の思いを書きながら、「自分自身の事なのに、こういった事をゆつくり振り返る時間が無かったな。」と新鮮な気持ちになりました。参加者の皆さんもじっくり考え込んでいる様子。

そして最後に、4グループに別れて『これまでの学校・これからの学校について』小さなサークルを作り話し合いました。各グループで様々な意見が交換される中で、ワークショップの終わりの時間が迫ってきて、名残惜しい最後となりました。

この時、4グループで話し合われたテーマは次の通りです。テーマごとにリヒテルズさんからヒントが出され、さらに議論を深めていく事ができました。皆でこれからも考え続けていきたい。そんなテーマでした。

これまでの学校は…これからどうすれば良い？

- 1: 教師が一方的に生徒に知識を伝達する。
- 2: 生徒は受身に知識を詰め込むだけ。
- 3: 全ての生徒が同じ待遇、同じ時間割
- 4: 生徒同士の相互作用が学習の場面に少ない。

こうしてみても？～上記1～4に対するリヒテルズさんからのヒントと問いかけ～

- 1: 教員は、生徒達に挑んでいく、問いかける、問題を提示する、メタ認知を刺激する。
 - 先生や大人は子ども達に何をすれば良い？具体的なアイデアは？
 - そのために何が必要？
 - 障がいになっているものは何？
- 2: 生徒達が知識を積み上げていくような時間と課題。情報を、自分にとって役立つ知識に変えていく力。
 - 生徒達を自分から学ぶようにするには、学校や家庭で具体的に何ができるだろう？
 - そのために何が必要？
 - 障がいになっている物は何？
- 3: 一人一人のニーズとテンポに合った学習ができるようなアレンジできないか？(イエナプランのブロックアワー。自立学習)
 - 日本の学校でも出来ることはないか、具体的なアイデアは？
 - うまくやるために必要な物は何？
 - 障がいになっている物は何？

4:子ども達の相互作用を刺激し、それを学習につないでいくために、GLはファシリテーターにサークル対話を使って議論、話し合いの場。遊びや共同学習による相互作用。

■学校や家庭では、どうすれば子ども達に相互作用の時間を作ってやれるだろう。場・時間・トピックをどう作る？

■そのために必要な物は何？

■障がいになっている物は何？

リヒテルズさんは教育における価値観の中で、今回このワークショップに集まった人々(イエナのあり方に共感している人達)というのは社会における少数派であろうと言われました。しかし、この少数の人達こそが社会をこれから変えていく原動力なのだと同時に伝えて下さりました。今の制度の中で躓く事もあるけれど、それでもあきらめない限り、私達にできる事はまだまだ沢山ありそうです。自分はどうしていきたいか？そんな事を考えさせられる濃い2時間でした。

【報告:田村悠子】



ワークショップの感想

【オランダ・イエナプラン教育ワークショップ埼玉を終えて】

7月27日(水)、さいたま市立桜木公民館にてオランダ・イエナプラン教育ワークショップ埼玉を開催しました。この夏のリヒテルズ直子さんの来日最初のワークショップに、平日夜にも関わらず県内外から30人以上の方にお集まりいただきました。本来なら数日かけないと学ぶことのできないことを、エッセンスを絞って2時間という無理なお願いにもかかわらず、リヒテルズさんには快く引き受けていただき非常に感謝申し上げます。

今回のワークショップ。テーマは「オランダ・イエナプラン教育におけるグループリーダー(教師)の在り方」とし、全てをサークル対話の形で行いました。リヒテルズさんの1つ1つの話の中に、私達が毎日の教育活動において、ちょっとした考え方の変化で変えていけるヒントがたくさんあったように思います。

教師(Teacher)ではなくグループリーダー(Group Leader)と呼び、それは人間を育てる専門家であるということ、そして何よりも教師がファシリテーターであるべきという考え方を再確認させていただきました。

そのためには、子どもと向き合う時の私達の立ち位置を意識しなくてはならないということ。遠くから呼び寄せるというのではなく、ともに進んで行くというスタンスが大切であり、ともすると毎日の忙しさの中で私達が忘れてしまっている初心がそこにあります。イエナプラン教育は愚直に求め続けているということに感激しました。

ワークショップの中で体験したそれらを具現化するための方法は、「個人」や「学年」といったレベルで今すぐにも、「やってみることが可能なもの」が多かったと感じました。

例えばサークル対話や「発言を強制しない」という姿勢、さらには「対話→遊び→仕事(学習)→催し」のリズムを毎日の中に意識するといったこと。こういったことから始めるのは、とても近道ではないかと感じました。

そしてそれらは、日本の教育で忘れがちになってしまっている「理念」とか「観」というものをもう一度見直せる、そんな感じがしました。

私が今回、最も印象に残った言葉は「洋魂和才」。

「和魂洋才」という言葉があるが、「洋魂和才」も必要だという話。

私自身の個人的な考えになりますが、これはどちらがよくてどちらがよくないというものではないと、1ヶ月近くが経った今、思っています。つまり、どちらも必要で、今は「和」の良さを強調するあまり「洋の理念の良さから学ぶ」ことが抜けているのかも知れません。様々な異なるものから学び、もう一度「真」なる理念を見直し、実のある方法を見つけ出していく。初心を大切に、洗練し庶流を凝縮した形(かた)から入る日本古来の学びの良ささえも、もう一度見直し、再構成する必要もあると感じました。

一教師である私たちには、すぐさま法や制度といったものは変えられるものではないのかもしれませんが、この日の2時間の中で体験したこと多くの方法は、そんな中でも毎日の教室にすぐに取り入れられるものでした。そして、「子どもの幸福度・世界一」のオランダのイエナプラン教育は、その基盤となる20の原則という理念をぶらさずカタチにしていく教師の姿勢が、最大の力であることを実感することができました。

最後に、今回のワークショップに際し、リヒテルズ直子さんだけでなく、日本イエナプラン協会の田村さんにも、多岐にわたりご尽力いただき本当に感謝しております。

そしてご参加いただいた全ての皆様。その全ての力があの中で結びついたおかげで、今回のような学び多き幸せな時間を過ごせたことを、本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

【教諭:加藤 健】

ワークショップin浦安 【7.30「イエナプラン体験ワークショップ@浦安」を終えて】

えっ！？浦安にも来て頂けるの？

リヒテルズ直子さんの帰国に伴い「浦安でも如何ですか？」というお誘いを頂いたのは、いつ頃だったでしょうか？5月に入っていたかな？こんな嬉しいお話を断るはずがなく、一つ返事で「やります！」と応えたものの、準備がなかなか整わず、間際までハラハラでした。というのも震災後の娘の出産と疎開、6月の母の急逝、息子の結婚と慌ただしい日々が続き、ポカやヘマ続きで、振り返ってみると、直子さんを待っていてくださった方々の何人かに案内を届けられなかったり、お知らせが遅くなったりと痛恨のミスをしてしまい、本当に申し訳なく思っています。

でも、川崎さんの強力サポート、和田さんの支えのおかげで無事に終えることができました。2010年6月の講演会、そして今年・・・ 昨年浦安で初めてリヒテルズさんの講演会を開催しました。この時は未だ直子さんの浦安での認知度は低く、またオランダの社会やイエナプランについても知らない人がほとんどだったため、直子さんの講演の後、ひきこもり支援の団体ニュースタート事務局の二神能基氏との対談をセットすることに。共通点は「日本の社会を変える」という強い思い。お二人の顔合わせに期待しての企画でした。

直子さんのお話は初心者を意識して分かり易く、参加者から「これ迄で一番よくわかった。」とか「あの紙(=マルチプル・インテリジェンス)がほしい。」という感想を頂きました。では二度目の今回はどうかと思案していたところ、直子さんからイエナプランを体験できるワークショップ形式ではと提案頂き、お願いすることにしました。サークル対話とグループ活動ができるスペースが必要ということで会場に悩みましたが、何とかギリギリOKでした。できれば椅子を移動しなくても良いよう準備すべきだったと反省しています。

また、ワークショップに先立ち、15分間のオランダツアー報告を斎藤さんをお願いすることに。「ムチャブリだ！」と言いながらも、快く協力していただきました。ありがとうございました。

イエナプランの今後は思案中です。浦安では昨年の講演会以降、原則月一回の学習会「**イエナカフェ**」を開催しています。その中でイエナプランを実践するためには、市内の理解者を増やさねば！という思いから、今回は市長、教育長、市議員21名もお誘いをするに。21名中3名の市議が参加、参加希望を頂いていたけれど、急用で欠席が2名、また関心を持ってメールを頂いた市議2名でした。これから一人ずつじっくり話し込んで、理解者や共感者を増やしていきたいと思っています。

何故そんなに市議員に拘るのかと疑問に思われるかと思いますが、以前チャータースクールを浦安に創る活動をしていた時に、市長から言われたのが「議会を通さないと」という言葉でした。となると、

「議員を無視しちゃイカンぜよ！」

ということなのです。

以前、NPOでユニバーサルスクール(高校年齢のフリースクール)を3年間運営していたことがあります。障がいの有無を問わず、自立と共生をめざして開校しましたが、財政的に続けられなくなり閉校しました。やはり誰でも通える学校となると「公立で」という思いを捨てがたく、時間はかかるでしょうが、諦めずに土台づくりだけでも進めていきたいと思っています。

さて今年の「イエナプラン体験ワークショップbyリヒテルズ直子」ですが、本当に楽しいワクワクする時間を過ごすことができました。多くの方から感想が届いています。その中に「学校とは勉強を教えるところではなく、人を育てるところという直子さんのお話を聞いて胸が熱くなりました。素晴らしい体験をありがとうございました。」という声。スタッフ冥利に尽きます。これでまた、リヒテルズさんのファン、「おっかけ」誕生だな～と深夜一人でウフフと喜んでます。「ジワリジワリと共感者を増やしたい」これが今の私の願いです。ちょうど私がハマったように！

【報告：山田順子】

ワークショップの感想

【イエナプラン入門ワークショップin浦安に参加して】

イエナプランについて、わたくしは『オランダの個別教育はなぜ成功したのか』を読んだだけで、知識の少ないままに参加しました。ワークショップは3時間以上にわたる予定で、周りはほとんど初対面の方ばかり。どんな内容なのかとドキドキワクワクしながら席に着きました。

リヒテルズ直子先生はエレガントな方で、やわらかい語り口でわかりやすく話してくださいました。まず、ワークショップの中身を前もって知らせてくださいました。「見通し」を持つことで安心して活動することができました。そして、イエナプランの学校と同じようにサークルを作り、アイスブレイクや息抜きのための「遊び」を適宜はさみながら、マインドマップづくりや表面張力の実験などグループの活動を行いました。具体的な体験をふまえたうえでイエナプランの教育理念やヨーロッパの実証主義についての説明を聞き、よく理解することができました。

リヒテルズ先生のお話はイエナプラン入門にとどまらず、教員にとって本当に大切なことをたくさん教えていただきました。たとえば、

◎教師は「人間づくり」の専門家であって、教育学的シチュエーションを作るのが仕事だということ
→日本の教員は「歯車づくり」をしようとしていないか？

◎10年たったなら教師も子どもも同じ「市民」であり、同じ立場に立つ者だという考え方
→子どもを決して「大人より劣った者」として扱わないこと

などです。

リヒテルズ先生は「市民社会」を作るための教育理念を具体的事実に基づいて説明してください、「みんなでやれば、できるかも！」という希望・勇気を持つことができました。また、ワークショップ全体を通してさまざまな職業や立場の方々と教育について考え話をすることができ、貴重な場となりました。逆に、教員である自分としては、普段は学校現場で教育理念について考え、同僚の先生方と話すチャンスがほとんどないことを改めて認識することにもなりました。

実はわたくしは浦安市内に住んでいながら、インターネットを通じてこの会を知りました。また、わたくし以外にもブログやツイッターでこの会を知り他県から来られた方も多かったようです。リヒテルズ先生のお話にあつたとおり、教育について考えることは次の世代の人々がどうなるのか、すなわち次の世の中がどうなるのか、どんな世の中にしたいのかを考えることだと思います。わたくしもこれから自分でさらに勉強しつつ、より多くの、さまざまな方々とともに考え実践していきたいと思いました。

【教諭：下西 陽子】



土曜日の講演会、昨年のものより非常に感激しました。特に、具体的な授業での方法論は企業でも活用可能だと思います。

- ・授業の最初にアジェンダのような全体を生徒に見せるとか
- ・理科の授業で仮説を議論させて実験をする(表面張力の例)とか

基本的なスタンスが素晴らしかったです。教員養成の授業に絶対入れていただきたいと思いました。入試中止はいきなりは大変そうですので、授業での方法論を教員に伝えて頂くだけでも素晴らしいと思います。

【下関に生まれ、福岡市で育つ。(リヒテルズさんのプロフィール)】

私も下関出身です。なんだかリヒテルズ様は明治維新の志士のようなですね。今後もよろしくお願ひ申し上げます。
【IT関連：安光正則】

ワークショップin東京 【先生の学校～イエナプラン教育を体感～】

ワークショップ第3弾は、8月4日に東京で開催されました。NPO法人Educational-Future-Centerとの共催で開催された『先生の学校～イエナプラン体感する～』に参加して下さったのは全部で40名。

10時20分～16時半(途中昼食を挟む)の5時間びっしり使ったワークショップは、当初時間的にたっぷり余裕があると思っていたのですが、いざ始まってみるとあつという間の5時間となり、「まだまだ話したい・考え続けたい。」そんな思いを抱いてのお開きとなりました。次が5時間のプログラム内容です。

- 1: サークルを作ろう
 - 2: プレゼン1(MI個別学習の基礎)
 - 3: プレゼン2(イエナプラン4つの要素と6つの特性)
 - 4: グループづくり
- ～昼食～
- 5: グループ学習(マインドマップ)
 - 6: 協働ゲーム
 - 7: プレゼン3(リズムミクな時間割と課題の出し方)
 - 8: プレゼン4(イエナプランの評価)
 - 9: プレゼン5(ワールドオリエンテーション)
 - 10: グループ学習(小さな実験)
 - 11: グループ学習(マインドマップ)
 - 12: まとめとしめくり



イエナプランの学校の1日は、遊びと仕事(学習)が見事に調和しているリズムカルな時間割となっています。ワークショップもそのようなスケジュールで始まりました。

ところで、今回のワークショップでは参加者の皆さんからアンケートをとらせて頂いています。ここでは、その関心の高かったテーマを中心に報告させていただきます。

まず、参加者の方々が高い関心を寄せられたテーマの1つが、【**プレゼン3 リズムミクな時間割と課題の出し方**】でした。リヒテルズさんの本を既に読んでいて、または何度か講演に参加したことがあり、ブロックアワーについてご存知の方は多かったように思います。

でも、実際にどのように運用されているのか？何となくイメージとしてはつかめているのだけれど、もっと具体的に知りたい！そんな勢いが皆さんにありました。

実際にオランダ・イエナプラン校の先生が作成した個人の時間割やクラス全体を把握する表、子ども達書いた自分の学習に対する評価などの画像を見せて頂き、そのイメージがどんどん膨らんでいく感じでした。この場面では皆さんからの質問も多かったです。学習の到達目標のためにどんな教材を使うのか？そういった事は各学校に任されていて、そのための教材も豊富にある。そんなオランダの教育環境はとても羨ましいですが、『日本では無理だね。』という訳でもなさそうです。オランダの教育をヒントに私達もアレンジしていけるものが沢山ある！そんなワクワク感も抱きました。

そして次に続く【**プレゼン4 イエナプランの評価**】。これも皆さんの気になるところです。コンピューター上に、ポートフォリオを作成していくというやり方、先生と子ども達の実際的评价に関するやり取りのお話などを伺いました。保護者との懇談会の様子も新鮮で、ここで学んだ事をどんな風に、現状で自分のクラスに取り入れられるだろうか？そんな事を考えていた方も多かったのでは？と思います。



オランダ・イエナプラン教育の全てをこの日本で取り入れられれば…。それは、とても素敵な事だとは思いますが、実現のために困難な事もあると思います。そんな中、自分で出来る事から始めているという方は参加者の中にもいらっしゃいました。

- ・どのようなイエナ的取り組みをされているのか？
- ・また、現状でどのような課題とぶつかっているのか？

アンケートで参加者の皆さんからお聞きしたものをご紹介致します。

質問:あなたが取り組んでいるイェナの活動がありましたら教えてください。また、どのような点で課題を感じていますか。

《取り組み》

- ・子どもを集中させるためにアイスブレイクをたまに行なっている。課題はレパートリーの少なさ。
- ・サークル対話。
- ・2学期から担任になるので、教室の環境づくりとクラス作り計画を考え中です。
- ・子ども達に目標を決めさせてそれに応えられる様教材を選んでいく事。
- ・学校での取り組みで近いものがありました。意味付の大切さを学びました。

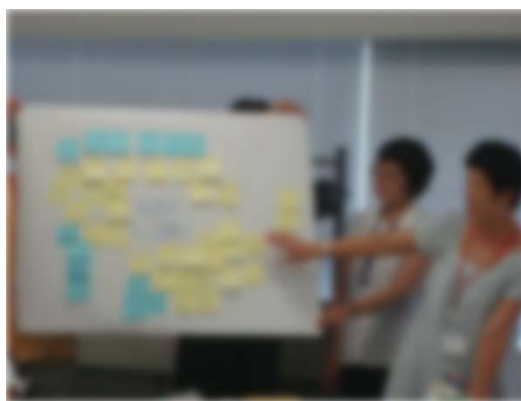
《課題》

- ・ポートフォリオ→継続して何年分かを見通す事ができない。生徒を管理するという考え方の教員と、どう協力体制をとっていくか。
- ・異年齢の集団でとにかく遊ぶ事。幼稚園からだ慣れるけれど小学校だと慣れていない事が多いような気がします。
- ・子ども達が自立的に学ぶための教材の用意や関わり方が難しい。

ワークショップの後半では、小さな実験を行いました。既に水を満杯にしたコップに、スポイトでさらに何滴水を入れられる？というこの実験では、各グループが大盛り上がり。



この結果については…。どうぞ皆さんご自分でやって見てください。実験終了後のサークル対話では、やってみて気がついた事、分かった事のやり取りが行われ、とても面白かったです。講義や実験を受けた後、『こんな学校にしたい』『そのために何が必要か』という話し合いを各グループで行いそれを皆でシェアしたのですが、どのグループのお話も納得！「なるほどね～」というものばかりで、もっともっと皆で対話を深めていきたいという思いです。



ところで、アンケートには次のような質問もあったのですが、皆さんからこのような回答が寄せられています。

質問:今日のワークショップを受けて今後取り組んでみたい(挑戦してみたい)活動はありますか。

- ・子ども達に自ら学びたい事を選ばせる事ができるlesson plan作り。
- ・マインドマップでの話し合い。etc.
- ・子どものメタ認知を促進するような問いかけをすること。

- ・ブロックアワーがまず出来そうかな？でも、それ以前に体験させて自分で学ぶ選択・探究する心を育てるところから始めたいかな？と思っています。
- ・リズム的な時間割と課題の出し方。イエナプランの評価。
- ・『課題の出し方』のお話はとても興味があります。クラスでやってみたいです。サークル対話もやりたい、やりたいと思っています。出来ていないので工夫してやれるようになりたいです。
- ・教室の改造、作業スペース、情緒スペース、生物スペースを作りたいと思います。後はグループ学習を授業に取り入れます。
- ・サークル対話を色々な機会に取り組んでみたいです。
- ・すぐにどれという訳ではないですが、考え方を生かして授業をしたいと思います。
- ・サークル対話。
- ・今回イエナプランについてはほとんど知識を持たず参加したので、リヒテルズさんの本をまず読んでみようと思いました。
- ・ワールドオリエンテーション、ブロックアワー、評価。
- ・子どもにたくさん質問をしています。それを時折記録するだけだったので、1週間に一度は続けてみようと思います。
- ・評価のあり方を考えたいと思います。
- ・どうしたら教育、社会、そしてそれについて関わる人が良くなるか考えたい。
- ・学校への導入についての検討。自分の学級での環境づくり。
- ・アイスブレイクをもっとやってみたいです。個別学習と評価についてイメージが湧きました。何かやってみたい。
- ・サークル対話、ワールドオリエンテーション、小さな実験。
- ・ブロックアワーをやってみます。
- ・サークル対話、マルチインテリジェンスを頭に置くこと。それぞれのスマートを伸ばす学習機会、学習コーナーを作ること。
- ・リラックスしたり楽しく遊んだりする時間を作ること。
- ・個を認めること。集団に対して受容的なこちらの態度。
- ・生徒が主体で生徒の中に眠っているものを引き出す。さらに促進する。異学年を活用する。
- ・新体操クラブにてイエナプランのワークショップで学んだ事を生かして言葉がけする。グループワークを取り入れる。周りの人にイエナの事を話す。

皆さんの回答から、日本でも可能性がどんどん広がっている！と、勇気をもらいました。各グループでの発表でも『できる事からやっつけよう』というものがいくつかありました。新学期の学校で、または別の場所で、それぞれが行動して実践&実績を徐々に積み重ね、それをまた共有していければ素敵だなと感じています。

【報告：田村悠子】



—リヒテルズ直子の 質問箱 —



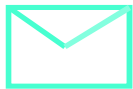
Q1: イエナプランの学校では日本のように教師から子どもへ叱りつけるイメージがあまりありません。厳しく叱責する場面はありますか。

Iさん



A: リヒテルズ直子より

厳しい叱責よりも、毅然としたアドバイスを好みます。基本的に、子ども自身が自分の行動に責任を持つように、また、問題を持っている子供には、その問題を本人が解決するにはどうしたらよいかをアドバイスするというものです。ペーターセン自身、「罰や怖れ、強制によって生み出される(よい行動)というものは、一人の人間である子どもの個人的な性にとっては何の意味もないことであり、社会にとっても意味のないことである」と言っています。



Q2: マイナス意見、どのような批判を受けることがあるかも知っておきたいです。

Kさん



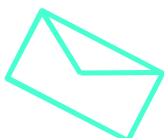
A: リヒテルズ直子より

プラス・マイナスの評価は、価値一元的な社会におこる評価です。その学校に希望して子どもを通わせる親がいる以上、その親たちにとっては好ましいもの、というのが大原則です。

ただ、ご心配のように、イエナプラン教育がすべての子どもにとってふさわしいとは言えないと思います。子どもによっては、枠組みがもっとはっきりした、あるいは、画一的な授業の方が合うというケースもあるかもしれません。家庭の事情にもよるでしょう。

イエナプラン教育そのものへの批判というよりも、陥りやすい問題点としては、学校チーム、校長と教職員全体のチームワーク、チームの雰囲気が大変大きな影響力を持つという点です。

また、教科学習の成果を、毎年毎年、年次の終わりに引き出そうとすると、イエナプランらしい授業を展開できなくなります。その意味で、日本の教育制度は、イエナプラン教育のための制度環境としては大変限界が多く、これを言い換えるならば、多年次にわたる人間づくりに対して余裕のないシステムであるといえるかと思います。



イエナプラン教育に関するご質問を募集しております。
下記のメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください！
info@japanjenaplan.org



★ニュースレターへのご意見ご感想をお待ちしております。

無事、第10号まで発行することができました。ありがとうございました！
より良いニュースレターの制作のためにも、みなさまのご意見ご感想をお聞かせください。

info@japanjenaplan.org

心よりお待ちしております。

★アンケートの質問を、【質問コーナー】に掲載しています。

8月4日のワークショップで皆さまから出された質問を【リヒテルズ直子の質問箱】に掲載しております。
今月号から順にお答えしていきますので、楽しみにして下さい。



★各支部のご案内

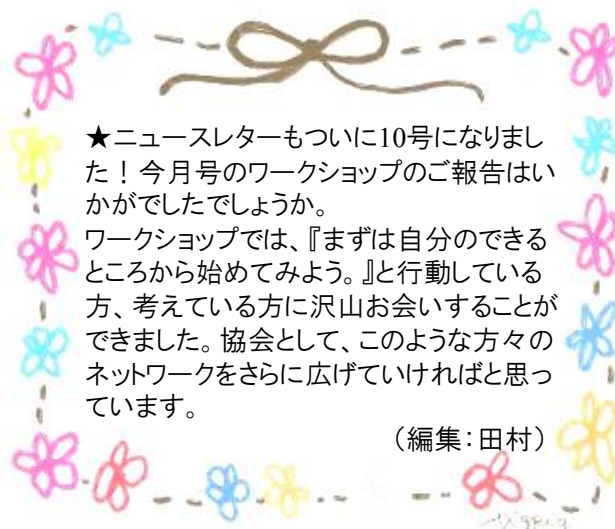
東京支部 info@japanjenaplan.org

千葉支部 chiba@japanjenaplan.org

埼玉支部 saitama@japanjenaplan.org

京都支部 kyoto@japanjenaplan.org

福岡支部 fukuoka@japanjenaplan.org



★ニュースレターもついに10号になりました！今月号のワークショップのご報告はいかがでしたでしょうか。

ワークショップでは、『まずは自分のできるところから始めてみよう。』と行動している方、考えている方に沢山お会いすることができました。協会として、このような方々のネットワークをさらに広げていければと思っています。

(編集: 田村)